

## 地域防災拠点・防災訓練

12月5日を控えて

関ヶ谷自治会長 田崎 幸雄

穏やかな日常。それを一瞬にして破壊する大地震。大地震はいつとも突然やってくる。

今日かも知れない。明日かも知れない。その時、行政からの支援はすぐに届きません。頼みの行政も被災するのです。大地震から命を守り、困難を乗り越えるのは私たち自身です。一人ひとりの備えと地域の絆で大地震を乗り越えるため、ここに憲章を定めます。

《よこはま地震防災市民憲章》これは東日本大地震の大きな記憶を風化させないため、広範な市民の意見を踏まえ、平成25年3月11日に制定された《市民憲章》の抜粋です。

今年も去る9月12日(土)には、関ヶ谷自治会防災訓練を実施しました。関ヶ谷地域住民が参加、地区長・班長さんを中心に、またそれを、防災ボランティアグループの皆さんがフォローアップする体制で、安否確認を主体とした防災訓練でした。この体制での自治会防災訓練の試行も、今年で4年目、訓練の成果も年々着実に見えるようになってきたことです。また、来たる12月5日(土)は、関ヶ谷・夏山・山の手の3地域の住民全員で、釜利谷西小学校地域防災拠点の防災訓練を行います。横浜市内に震度5強の地震が発生したことを想定した、地域防災拠点の開設、運営に視点を置き、避難者の受け入れ、誘導、避難者の生活環境を確保するまでの個々のプロセスを実体験する訓練です。

社会は既に少子高齢化の時代に入り、いろいろ問題はありますが、ここに高齢化が顕著に進行しつつある私たちの関ヶ谷地域の大きな特性と、安全安心な暮らしに視点を定めれば、これら2回の防災訓練は、私たちにとって、大事なだじな訓練であることは必定です。

## 「防災訓練!」

### ◆自治会防災訓練報告(9月12日)

自治会館本部と西小本部(コミハ)に分かれて実施されました。

今年度も安否確認サインの表示や訓練参加者の数字は依然として高い数値であった。

### ◆防災V.Gによる要援護者の確認

- ・タオル&消火器あり… 78軒
- ・インターフォン応答あり… 20軒
- ・インターフォン応答なし… 6軒

合計104軒

### ◆防災V.G関係の質疑応答

質問:個人的な都合で、防災V.Gの安否確認と班の安否確認を同時にやった。この方が、合理的ではないか?

回答:防災ボランティアが要援護者を担当する班と同じなら同時にできますね。しかし、防災ボランティアや要援護者の方が偏っている班があり、やや離れた班を担当しているケースがあるのでそれらを考慮してスタートを9時40分にしました。



「近所の情報共有が一番!」

民生委員 大島 房子

関ヶ谷自治会では民生委員3名が、約1100世帯を3地区に分けて担当しています。毎月、釜利谷地区の民生児童委員協議会(民児協)が開かれ、研修や情報交換が行われています。最近の研修では「認知症と地域の見守り」テーマに基づ



と民生委員の役割」というのがありました。

他地域と比べても高齢化率の高い関ヶ谷は認知症予防対策もしかり、重症した場合でもこの地域ではできる範囲ですが、協力し見守りながら支え合う地域にできればいいのではないかと考えております。毎年行っている民生委員と自治会のアンケートには住民の方が協力してくださいというメッセージがあります。新しい確かな情報として大変助かっています。住民の移動もかなりありますので年一回のアンケートが重要であると感しております。

関ヶ谷自治会には防災ボランティアグループとつながりがあります。お一人住まい(独居)の方も多く、高齢者世帯も多い実状ですので、心強く思っております。災害時には要援護者の見回り、防災スキルチームでの役割分担など、ボランティア活動をしてくださるのです。その他、見回り隊、公園部など各方面より防災に動んでくださっている方々にも感謝しております。

気持ちよく散策がいつでもできる緑道、公園もあります。民児協での情報交換等により他地域にはない、いへつかのすばらしい自主活動がある事が分かりました。健康で長寿の方々が多いこと、関ヶ谷地域の秘訣とも言えます。

「関ヶ谷三軒両隣り」のおつき合いは、何にも勝る防災と生きております。お困りの事、相談等がありましたら、微力ながら少しでもお役に立てるよう訪問する事も含め、活動してまいりますのでよろしくお願い致します。



## 食と防災 第三回

「大切な水を確保しよう」

7 : 2 : 1  
自助 : 共助 : 公助



災害時には、人が生きていくには欠かせない飲み水、手洗いや洗面、調理や食器洗浄など様々な生活用水も必要です。生命と健康を維持するのに必要な水の量を確保し上手に再利用しましょう。

◇家の中にある水を手チェック!

飲料水…冷凍庫の水、ペットボトルなどの飲料水

生活用水…お風呂の残り湯、トイレのタンク水

◇準備しておきたい水の量(2人家族の例)

飲料水…1人1日3ℓ×2人分×7日分=42ℓ

生活用水…1人1日7ℓ×2人分×7日分=98ℓ

◇水を運ぶ

こんなものがあると便利

☆段ボール箱やシロップクーラーにポリ袋を被せて給水リコックで運ぶ

☆ヘルメットやシロップクーラーに入れて運ぶ

☆給水リコックで運ぶ



非常時に備えて準備している飲料水の保存期限が切れていては非常時に役立てません。長期保存型の飲み水を確認しておきましょう。そして貴重な水は毎日大切に使いましょう。



## 防災ボランティア

防災ボランティア活動を下記のチームで行っています。一緒にやりませんか 会員募集中!

防火チーム、情報・通信・電気チーム、医療・介護チーム、食糧・物資チーム、防災資機材取扱チーム  
連絡先 自治会館 784-4447

### 強力な停電対策用品 車から電気をつくれます!

情報・通信・電気チーム 荒木健治

私は、家の耐震化、家具の転倒防止、水の備蓄【エコキート、200L以上】、食べ物・火力の備蓄2週間以上など、緊急時の備えはよくやっている方だと思っています。だがひとつだけ気懸かりなものがありません。それは家庭電源です。電気が最も弱い生活インフラのようです。電気がないとTVはダメ、電話もダメ、携帯・スマホ・PCも1日〜2日で使えなくなります。冷蔵庫の中のものも3日ほどで腐ってしまいます。家電製品はあれもこれも使えなくなります。昨秋、車から家庭電源を作る機器を求めてネットサーフィンを行いました。いいものが見つかりました。インバーターを使い車載バッテリーから交流をつくる機器が既に市販されていました。(商品名BESTEK 出力交流100V300W、2980円、写真)。以下これの活用を試行してみたので紹介します。

- ①乗用車(2500CCハイブリッド)の電装用バッテリー(12V)に
- ②交流に変換するインバーター(仕様:12Vバッテリー接続で300W、品名:BESTEK)を接続する。
- ③次に以下の家電機器に接続した。TV:92W+ BR録画器:25W+ 白熱電球スタンド:54W+ 扇風機:40W+PC・スマホ・固定電話:+αW(使用電力の合計は211w+αであった。)
- ④接続車内電装品【エアコン・オーディオ】はすべてOFFとした。
- ⑤結果、2時間の通電を行ったが各機器とも順調に作動した。
- ⑥途中、15分ほどエンジンONで充電。その前後は停止したままだった。

- 1) 300Wは全ての乗用車で取りだせる。  
理屈では電装品の消費量(発電機容量)(400W〜800W)まで取りだせることになるが気付かないところ(インパネ・待機電力など)で消費されていることもあるので、実用的には300Wである。
- 2) HV車は駆動用モーターの電力供給も必要なため、発電機容量は大きく5〜10KWである。配線などに送電能力に対する配慮をすれば使える。
- 3) 燃費はHV車で1L/日、一般車で1L/時(条件の影響が大きく、いずれも物凄い推定)。一般車では燃費が良くないのが気懸かりです。保管用ガソリン缶が市販されており40L未満なら家庭での保管ができます。備蓄を行えば心強くなります。

問合せ先・荒木 E-mail: f-araki@gf7.so-net.ne.jp

<予告>

「車から家庭用電気(100V交流)をつくる」デモンストレーション

「西小地域防災拠点訓練」の当日に行います

日時:12月5日 10時〜 場所:釜利谷西小



### 『防災部・防災ボランティアの今後の活動予定』

- 地域防災拠点訓練  
日時:12月5日(土)10時〜 場所:釜利谷西小  
☆カーバッテリーを使った家庭用電源のデモ(情報通信電気チーム)
- ☆非常用炊き出し袋を使った簡易ご飯炊き
- 民生委員・自治会の要援護者等の希望者登録調査:新担当者を決定、12月〜1月
- 各スキルチーム活動・打ち合わせ:11月〜1月
- 毎月開催:防災会議、防災ボランティア役員会
- スタンドパイプ防火訓練:12月11日(防火チーム)
- 防災ボランティア総会:1月16日(土)予定、釜利谷西小
- 非常用炊き出しポリ袋での体験デモ(食糧・物資チーム)石記の予告。

### 「防災資機材チームの活動について」

リーダー 梨本 治

防災倉庫の棚卸し台帳(2015/6/21)に基づき、現品の確認作業を資機材チーム(12名)にて実施しました。今後の資機材の管理に当たっては、担当チームを決めることが良いとの考えにて、8月中旬に担当管理区分表(案)を作成し、他チームに配布致しました。その後、情報・通信・電気チームや医療・介護チームとは内容確認打ち合わせを行いました。現在、各資機材の点検時期、点検項目等をリストアップして管理基準案を作成しているところです。11月中旬に資機材チームないで確認打ち合わせの予定です。また、現物確認の為に8/14には発電機起動確認、8/15にはテント設置作業に参加致しました。

### 「医療・介護班チームから」

リーダー 木部和子・出澤由紀子

当初実効性のあるマニュアル作成?など大それた目標を掲げようと思いましたが、医療班は人数が少ない為に思うようにいかない現状であります。ならばできることからという事で、始めています。

- ①応急救護資材の、点検・整備
  - 自治会等で持っているもの、保管場所、点検状況等を確認し表に記入しておく
  - 保管場所は自治会館以外ではどこが良いか?
- ②応急手当の知識・技術の普及
  - 応急手当(すり傷等)●医療機関への搬送補助…紙面で練習。
- ③応急処置スペースの確保…練習
  - シミュレーションし、必要物品の整備
- ④指揮系統と役割分担を明確にし、手にしたカードを見ると動けるようにカード作成 … 思案中
- ⑤介護者が不足する場合は、現場で臨機応変に援助者を募り、協力を要請することを共通確認。

### 「防火チーム」の当面の活動

リーダー 小島真人

- 1) スタンドパイプの活用について  
「スタンドパイプの取扱規定」の正文化及び現状のスタンドパイプ1台を使って、「防火チーム」メンバーで取扱い等の訓練を行いスキルアップを計っていきます。その第4回の訓練を消防署の指導のもと、12月11日に行う予定です。
- 2) 「火を出さない!火災を起こさない!」活動  
これから冬に向かい火災が起きやすい季節です。火を出さない為の諸々の啓発活動を自治会「防災部」と共同で実施を検討中です。

### 非常用炊き出し袋を使って体験と試食会

食糧・物資チーム 茂田悦子

8月末に食糧班物資チームが集まり、強化ポリエチレン製の非常用炊き出し袋を使って炊き出し体験と試食会に参加。米やカレーの材料を入れたポリ袋を沸騰した湯にいれ、しばらく炊くと出来上がり。白飯、ワカメや野菜入り味噌汁、カレーなどを試食。私はカレーが良かったです。平時に作る食事には及ばないにしても、ポリ袋でここまでできるんだ!というのが正直な感想です。水や食料など物資が届かない状況で温かいものが食べられたら、とてもほっとします。災害時に便利なので多くの人に知ってほしいです。初めての炊き出し体験で、やはり日頃の備えと地域のつながりが大切なのだと思いました。

<予告>

非常用炊き出しポリ袋を実際に使ってご飯やカレーを作ってみましょう!  
日時:平成28年1月23日(土)  
場所:自治会館 10時〜12時  
詳しくは関ヶ谷だより12月号にて